

めくってね!!

10人^{にん}の幸^{ラッキー}記^き者^{きしゃ}が取^{じゅう}材^{ざい}



来年ハリオリンピックへ手ごたえ
「100%頑張れた」

◇5月13日 横浜・山下公園周辺特設コースでエリート男女（スイム1・5キロ、バイク40キロ、ラン10キロ）パラ男女（スイム0・75キロ、バイク20キロ、ラン5キロ）日本男子の新エース、二ナー賢治（30＝NTT東日本・NTT西日本）が、エリート男子で日本勢最高の11位に入った。スイムを4位で上がった二ナーはバイク、ランともに上位をキープ。終盤遅れたものの、トップと55秒差の1時間43分8秒でゴールし、来年のパリ五輪に向けて手ごたえを口にした。エリート女子は佐藤優香（31＝トーンパートナーズ・NTT東日本・NTT西日本、チームケンズ）が日本女子最高の29位だった。パラ男子ではPTWC（車いす）の木村潤平（38）が世界シリーズ初優勝。東京パラリンピックPTS4で銀メダルの宇田秀生（36）が4位に入った。なお、今大会では「じもスポーツ記者を一般から募集、選ばれた子どもたちが大会の感想を寄せた。

スイムは4位

記者の前に現れると「100%頑張れました」と胸を張った。狙っていたのは、10位以内。もう少しでしたね」と悔しがったが、その表情には満足そうな笑みもほほえた。

豪パース育ち

「自信を持って臨んだレースだつた。4月にはスペインで標高2300メートルの高地合宿。練習から好々沿道の歓声を受けて入賞圏内をキープ。14年に田山寛豪が記録した大会の日本男子最高位8位更新も見えていた。

終盤抜かれて11位まで順位を落としたものの、力を振り絞ってゴール。そのまま倒れこんで車いすで運ばれたが、元気を取り戻して

強いメンタル

スイムを出すなど、状態は良かつた。世界のトップがそろそろレース前にいたもの、力を振り絞ってゴー

の山根英紀

リーダーは「繊細な本人のトレーニング法や調整法を取り入れ、強くなつた」と目を

東京五輪対策チーム

めめた。東京五輪の14位で変わった。「強くなつて、メダルを」。トレーニングを見直し、普段の生活から改められた。JTIパリ五輪対策チー

A vertical decorative panel featuring large blue stylized characters (likely '世界') with red outlines, set against a light blue background. The characters are interconnected by a network of red lines forming a complex web. A small vertical label 'せかい' (sekai) is located in the upper right corner of the panel.

110人のキッズ記者が大会サポート「キッズプログラム」



110人が大会サポート「キッズプログラム」

2023ワールドトライアスロン・パラトライアスロンシリーズ横浜大会では、4年ぶりに「キッズプログラム」が実施され、応募総数154人の中から、抽選で選ばれた110人の子どもたちが参加した。本大会では、開催初年度である2009年に「世界こどもスポーツサミット in 横浜」や「世界キッズトライアスロン大会」を同時開催し、その後も「キッズドリームフェスタ」や「キッズトライアスロンセミナー」などのキッズ関連事業を継続的に実施してきた。今回の「キッズプログラム」も、子どもたちがスポーツを通じて「する」「みる」「さえる」ことの大切さを学び、競技に挑む世界のトップアスリートを感じられる機会として企画された。



こどもスポーツ記者 10名

エリートパラトライアスロン・エリート女子のレースを撮影し、取材体験を行った。子どもたちは前日ワークショップでカメラの操作方法や新聞の書き方を教わり、大会当日はキヤノンのミラーレスカメラを構え、雨の中でも熱心にシャッターを切っていた。こどもスポーツ記者会見では、レース直後の秦由加子選手・米岡聰選手にそれぞれ質問を投げかけ、期待と緊張が入り混じった取材体験となった。このプログラムは、キヤノン・日刊スポーツ新聞社・大会事務局によるパートナーシップ事業として行われた。

ハイタッチキッズ 18名

エリート女子・エリート男子のスタートセレモニーで、スタート前の選手をハイタッチで送り出した。選



エスコートキッズ 8名

エリート女子・エリート男子のメダルセレモニーで、表彰選手(1~3位)と手をつなぎ、表彰台までエスコート。セレモニー前には選手と写真撮影をするなど、世界のトップ選手との交流にワクワクした様子だった。

ブーケキッズ 9名

エリートパラトライアスロンのメダルセレモニーで、表彰選手(男子6、女子5カテゴリー1~3位)に花束を贈呈した。子どもたちが「Congratulations!」と声をかけると、選手が「Thank you!」と返し、笑顔あふれるセレモニーと



ハイタッチキッズ



エイドキッズ 8名

フィニッシュ後のリカバリーエリアで、レースを終えた選手にタオルやドリンクを手渡した。最初は緊張して声をかけられなかった子も、最後にはジェスチャーを交えて一生懸命選手に声をかけている姿が印象的だった。

キッズ応援隊 57名

フィニッシュ前最後の直線コースを駆け抜けていく選手を、大きな声で応援した。子どもたちは、エリート女子のレース終了後に特別観覧エリアに登場した高橋侑子選手と池野みのり選手と一緒に、エリート男子の応援や記念撮影をするなど、トップ選手との交流を楽しんだ。

横浜こどもスポーツ基金 寄附金 募集

障害のあるこども達等へ「スポーツ」を通じて、夢と希望を持って育ち、身近な地域でスポーツ活動に参加できる環境作りに寄附をお願いします。

お申し込み
お問い合わせ

<http://yokohama-csf.jp/>
HPの「お問い合わせ」ボタンよりメールにて
お申し付けください。



よこはま
横浜でライバルの戦い

えがお
きっと笠顔になつてみよう

